



乳幼児教育・保育推進事業 通信 ～令和7年度 乳幼児教育・保育協働研修～



令和7年11月20日(木) 第17回研修会(保幼小連携)を開催しました。

29名の先生方と一緒に学び合いました。

(幼稚園3名・認定こども園10名・保育園1名 小学校教務主任15名)



テーマ
「スタートカリキュラムの改善Ⅱ」

1. グループワーク・発表

自校で作成した令和8年度のスタートカリキュラムを持ち寄り、架け橋ブロックを基本とした
グループで意見交流

2. 指導助言

京都府山城教育局 指導主事 幾馬 礼奈先生





令和8年度スタートカリキュラム案をもとに意見交流をした中で、感じたことを一つ記載してください。

【就学前施設より】

- ・45分授業を2つに分けるなど、子どもの負担がないように考えてくださっているのだなと思った。
- ・小学校入学にあたり、不安が大きいので不安をのぞいてあげることが大事。やったことがある、見たことがあることが不安を取り除くことになると思うので、小学校との情報交換は必要だと感じた。
- ・小学校の先生方が『幼児期の子どもを知ろう』『安心につながることとは何か』と考えをめぐらせてくださっていることがわかった。園での取組をかけ橋ブロックで伝え、小学校を理解することも大切だと感じた。

【小学校より】

- ・園の先生の想いをしっかり聞かせていただいた。「らしさ」を大切にされている点が心に残りました。
- ・一人ひとりが安心感を持って4月を過ごせる工夫づくり。
- ・来年度のスタートカリキュラムで、朝と帰りにゆとりの時間を取ったのでそこでできそうな活動を教えてもらった。
- ・就学前の子どもの実態をしっかり把握することが大切だと思った。ぜひ保育園、幼稚園に足を運ぶ機会を取り、見に行きたい。



講師の先生のお話の中で
心に残ったことを一つ記載してください。

【就学前施設より】

- ・安心がやる気につながり、自立していくことからまずは小学校を安心できる場にしていくために連携が大切だということ。
- ・中3での姿をイメージし、育てたい姿を幼小中と同じ思いを持てていることが理想的である。
- ・スタートカリキュラムを実施することで子どもたちがより安心して学校生活に入っていけることが心に残った。
- ・子どもの興味や関心を育むことが自ら探求する学びにつがっていくということ。

【小学校より】

- ・教え込むのではなく、子どもたちの興味を引き出して活動を行うという視点が大事だと思った。
- ・1年生に限らず、どの学年、授業でも自己選択する機会を作る工夫が授業改善にもつながると思った。
- ・接続の進め方のイメージをフェーズ1から知れたので見通しが持てました。
- ・自己決定をすることが意欲につながる。

